

お問い合わせ

鹿児島県上野原縄文の森
〒 899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森
1番1号
TEL 0995-48-5701
FAX 0995-48-5704
ホームページ <http://www.jomon-no-mori.jp>
メールアドレス uenohara@jomon-no-mori.jp

古代人の華麗な技

発掘調査を重ねるたびに、現在のような精密工具のない時代につくられた、驚くほどの精度と技術・創造性を兼ね備えた製品（遺物）に出合います。古の人々は、身近にあふれる石や樹木、土などの特性を良く理解し、それぞれにあった加工を施し、生きるための道具を作り出しました。今回の企画展では、鹿児島県内にある重要文化財や県指定文化財を中心に、ものづくりの原点とも言える古代人の華麗な技を紹介します。

さらに今回は、故・河口貞徳氏収蔵資料の一部も同時公開します。

同時公開

河口コレクションとは？

平成 23 年 1 月に、101 歳でお亡くなりになるまで鹿児島県考古学会の会長を長年務められた河口貞徳先生が、60 年あまりにわたって研究・蓄積されてきた土器や石器などの考古資料や、実測図、書籍などのことです。鹿児島県の歴史や文化を知る上で大変貴重なものです。

これらの資料は、ご遺族のご好意により県立埋蔵文化財センターへ寄贈していただくこととなりました。

今回の企画展では、河口コレクションの一部を展示・公開し、これまで残されてきた業績を偲びたいと思います。



五電高校考古学資料室で昭和30年代前半 撮影後半



軽石製岩偶（かるいしせいがんぐう）ひとまわり小さく乳房があるほうが女性で、耳に孔がある方が男性とされます。

山ノ口遺跡（錦江町） 弥生時代（約2000年前）

山ノ口遺跡では、当時の海岸線に沿って幅20m、長さ60m程の範囲に10基あまりの祭祀遺構（祭りをしていたと考えられる場所）が見つかりました。

遺構からは、軽石製岩偶や、軽石製・土製勾玉、儀式に使ったと思われる大型の磨製石鏃など発見されています。

今回の展示データ

遺跡数	展示資料数	展示パネル数
12	192（一括展示含む）	37

古代人の華麗な技

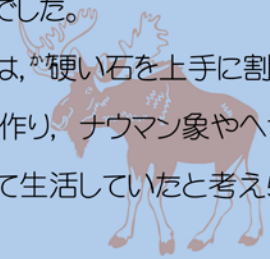
耳取遺跡(曾於市)

耳取遺跡では、約2万4千年前（旧石器時代）の狩猟の道具である剥片尖頭器やナイフ形石器・角錐状石器などや、毛皮の加工具と考えられる搔器（搔きとったりする道具）・削器（削ったり切ったりするための道具）、孔をあけるためのドリルなど、寒冷期における狩猟生活に必要な道具が一通り揃って見つかりました。

獲物を追う

耳取遺跡の出土品が使われた時代はまだ氷河期で、海面は現在よりずっと低く、桜島はまだ活動を始めたばかりの海底火山でした。

この時代に生きた人々は、硬い石を上手に割ってヤリやナイフなどの道具を作り、ナウマン象やヘラジカなどの大型動物を追って生活していたと考えられます。



石を割る

金属製の包丁やカッターなどが無い時代、人々は身近にある硬い石を材料にして、見事な道具を作り出しました。これらの製品や、製作時にできたたくさんのかげらを細かく調べたところ、旧石器時代に生きた人々は、どんな石材を使い、石のどの部分をどの方向にたたけばいいかをよく理解していたことがわかりました。



剥片尖頭器（県指定文化財）
似たような形に整えられた狩猟の道具

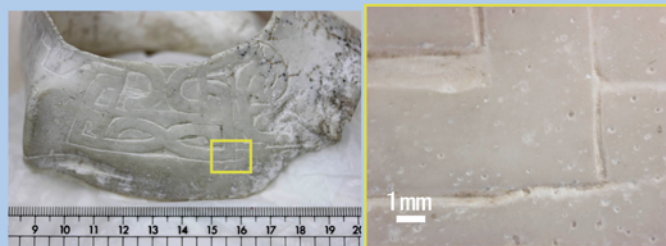
貝を刻む

種子島の広田遺跡の人々は、種子島よりもさらに南の島でとれるオニニシやイモガイなど色や形の美しい貝を加工して、貝輪や貝符などの美しい装飾品を作りました。

広田遺跡(南種子町)

広田遺跡は、弥生時代後期後半から古墳時代にかけての集団墓地で多くの人骨や貝製品等の副葬品がみつかりました。

なかでも貝製品は、南海に生息するゴホウラやオオツタノハ、ヤコウガイやイモガイ等の貝殻を素材として、貝輪・貝匙など種類も豊富です。特に貝符や亀佩形垂飾品には、大陸起源の文様と考えられる製品もあります。このように多量の貝製品を墳墓に副葬する文化はほかに例がなく、貝製品及び素材の交易を示す貴重な資料です。



オニニシ製貝輪(重要文化財) 貝輪の加工痕拡大画像
広田遺跡：県歴史資料センター黎明館蔵 (左の黄色い四角部分の拡大写真)

貝殻はとても硬く、今のように機械のない広田遺跡の時代（約2000年前～約1500年前）に、細かい線を刻んだり穴を開けたりする作業は、とても根気のいる技術です。

